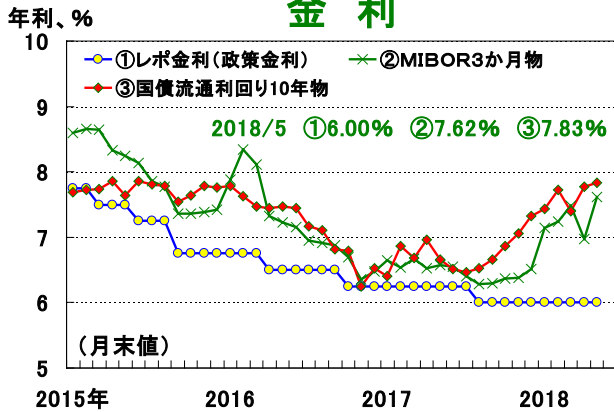


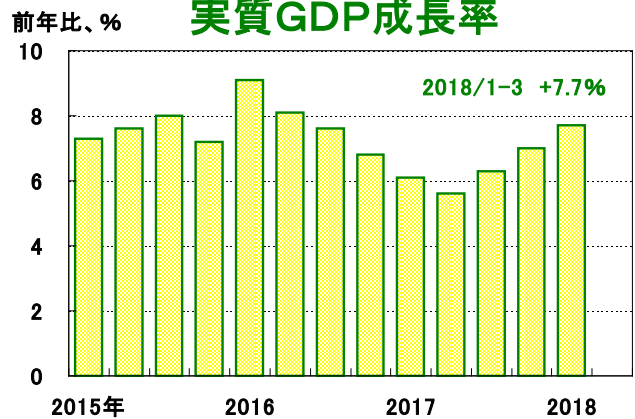
グラフで見るインド経済 2018年6月号(No. 102)

2018年1～3月期の実質GDP(国内総生産)は前年比+7.7%(前期は同+7.0%)と、7四半期ぶりの高い伸びとなった。1～3月期は、輸出が前年比+3.6%と減速したものの、総固定資本形成が同+14.4%(前期は同+9.1%)と大幅に増加したことに加えて、政府支出が同+16.8%(前期は同+6.8%)と3四半期ぶりの高い伸びとなり、成長率を押し上げた。また、個人消費も前年比+6.7%と前期の伸び(同+5.9%)を上回った。直近の月次指標をみると、4月の新車販売台数は前年比+7.5%(前月は同+6.4%)と堅調に増加した。

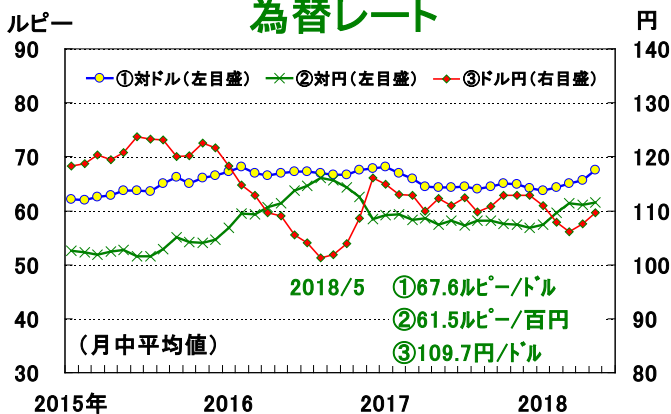
金利



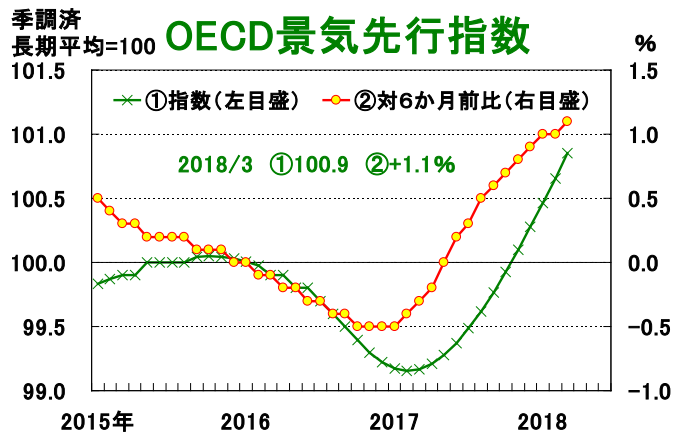
実質GDP成長率



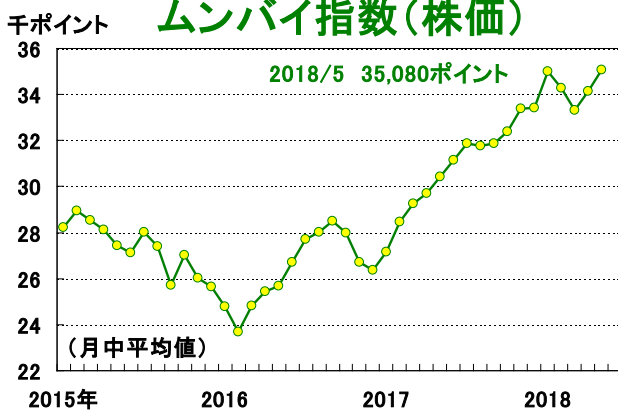
為替レート



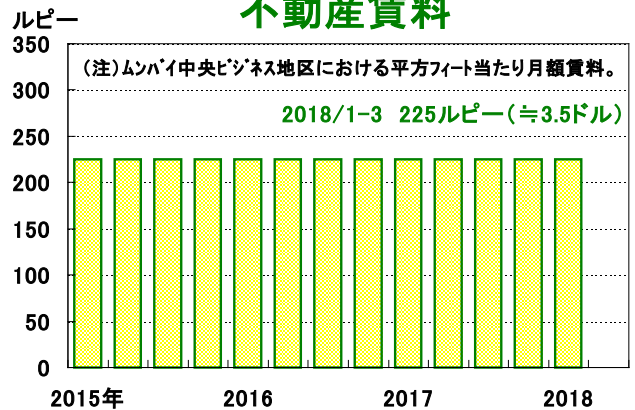
OECD景気先行指数



ムンバイ指数(株価)



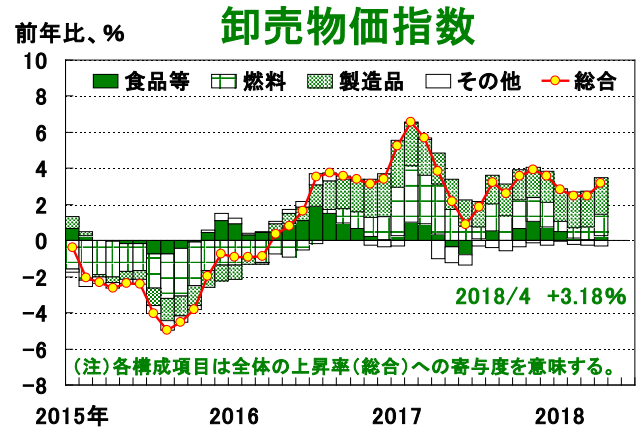
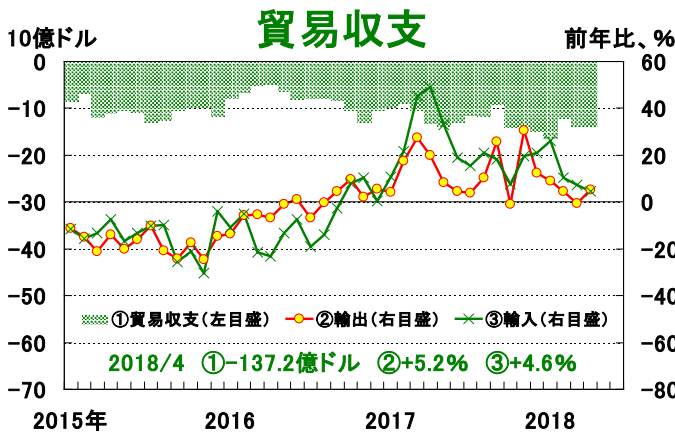
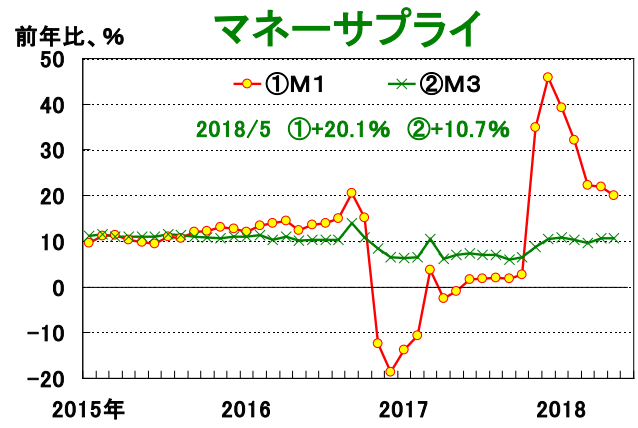
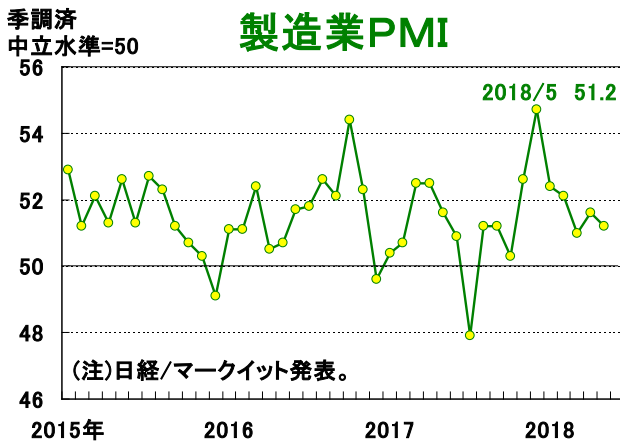
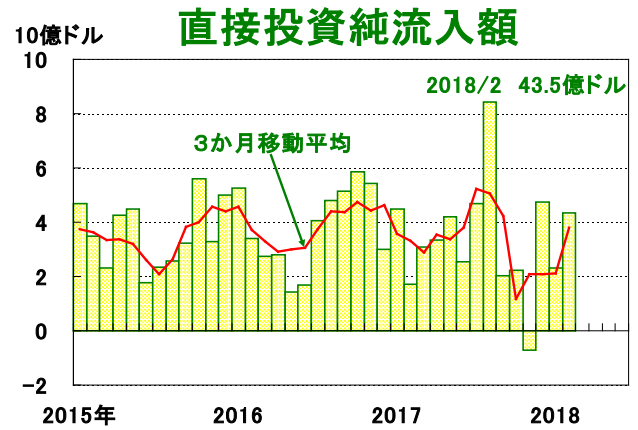
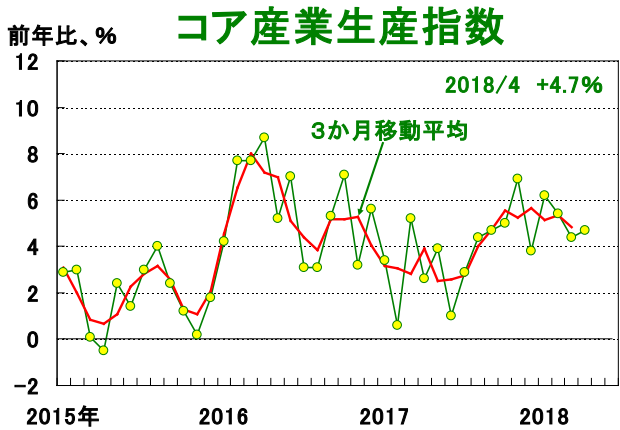
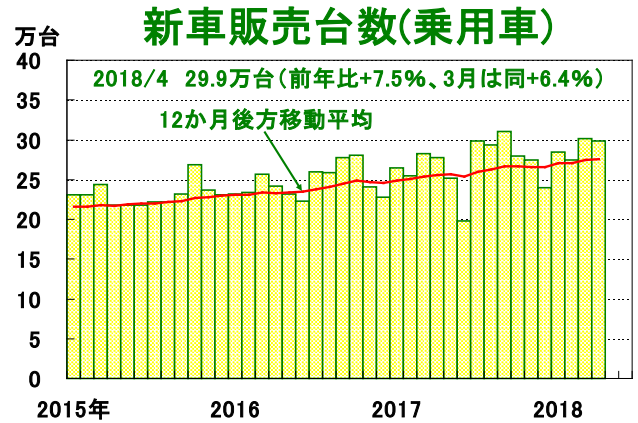
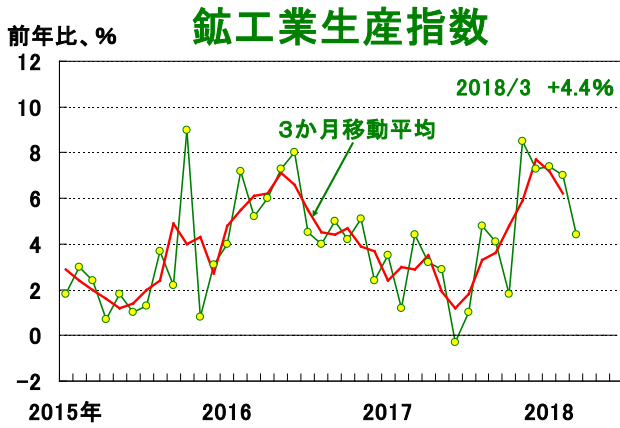
不動産賃料



【今月のトピック: 政府が砂糖の余剰在庫対策を強化】 インドは世界第2位の砂糖の生産国であり、約5,000万人がサトウキビの生産に従事している。現在、砂糖の商品市況は低迷しており、インドの製糖産業は約250万トンの過剰在庫を抱えている。生産農家への経済的な悪影響を防止するため、インド政府は砂糖の過剰在庫の処理対策に乗り出している。具体的には、①砂糖に課していた20%の輸出関税の撤廃、②農家に対する製糖業者の代金支払いへの補助金の導入、③緩衝在庫の導入の検討、である。こうした政策が実施される背景には、2019年の総選挙で農民からの与党支持を確保する狙いがあるとみられている。

(出所) インド準備銀行、インド統計・計画実施省、OECD、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) インド統計・計画実施省、インド商工省・同経済諮問部・同通商情報統計局、インド自動車工業会、インド準備銀行、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。